地方からの日本創造

約束・実現の行・動・宣・言

● Homepage : http://www.e-amagasa.net ● E-mail :amagasa-@khaki.plala.or.jp

バス停の工夫で乗降しやすく改良

「夫婦とも高齢になったため車の運転をあきらめ通院や買い物などにバスを利用しています。1か月千円負担で定期券を使えるのは大変ありがたいのですが、バスの乗り降りはとても不安です。歩道から乗れれば安心ですが、またげるほど近くに停まれません。一旦道路に降りて、バスに乗ろうとしましたが、段差が大きいので体が持ち上がらず、先日は後ろから男性が大丈夫ですかと言って押し上げてくれ、ようやく乗り込めました。バス会社やお役所の方で何とか改善していただけないでしょうか」という声が届きました。

歩道を10センチ前に出すだけで安全に乗降できるようになった

実際に、東百合丘の「中の台」バス停に行ってみると、上り坂のカーブで、停車するバスの車体は右に傾きます。ガードレールがあるため歩道にきっちり寄せられずに、バスに乗る高齢者は一度10センチの歩道から車道へ降りなければなりません。最近多くなったノンステップバスは、乗降時に車体が歩道側に7センチ傾けられるのですが、それでも23センチ以上の段差です。歩道から直接上がれれば13センチで済みます。実は13センチの段差さえも高齢者や障害を持つ方には困難なことです。

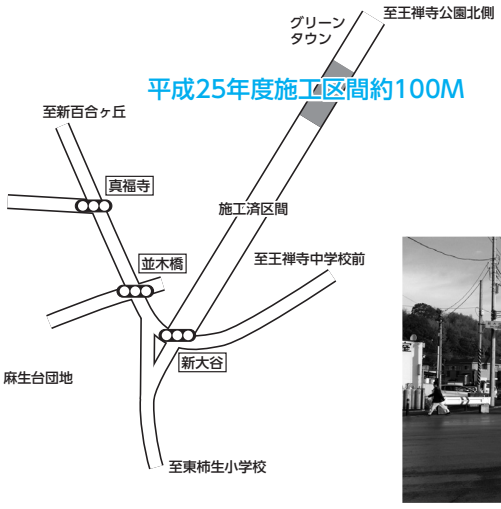
このことを6月の議会で質問し、斉藤副市長から「バスの利用環境向上について一層取り組みを進める」との答弁を引き出しました。さっそく住民立会のもと、現地を調査。小田急バス株式会社が全面的に調査に協力してくれたことには、感謝の声が上がりました

写真の通り、バス停部分の歩道を10センチほど前に出し、車の通行を妨げずに、安全に乗り降りできる環境を整えました。自治会役員の方のアイデアです。わずかな工夫で、高齢化社会へ対応し、改善できることがたくさんあるはずです。

菅早野線 26年3月ようやく開通に

強制収用の話も出ていたこの未開通道路の用地ですが、地権者との交渉がまとまり、開通に向けてようやく工事が始まります。

年度内に権利関係の整理をして新年度から他の部分に比べて一段低くなっている畑や駐車場部分を是正するため擁壁盛土工事を行ないます。その後下水、水道工事を行い、開通は26年3月の予定です。



新百合ヶ丘総合病院 小児救急の早期実現を

12月6日阿部市長に対して麻生区の予算要望を行いました。その際に私は区民の間で心配されている新百合ヶ丘総合病院の小児病棟を早期に立ち上げるようとくに申入れをいたしました。

現在、1日に対して1名か2名体制で（横浜市大や東京医大などの医師などにより）小児科外来を行っていますが、市民の皆様からの心配をなくすように、早期の小児救急輪番体制を担えるよう市長からも積極的に働きかけるようにお願いしておきました。

小児科の充実は産科の充実にも重大な影響を持っていますので今後とも注視していきたいと思います。

一世帯月額50円の軽減措置より

水道管の耐震化 防災対策の促進を

私たち民主党川崎市議会議員団は12月定例議会において議案第224号 川崎市水道条例の一部を改正する条例の制定について反対を致しました。

以下本会議での反対討論の内容を報告させていただきます。

2年前より、3年間の時限措置として定め、一契約当たり月額50円の軽減措置を川崎市は現在特例で実施しています。

先の代表質問でも述べた通り、市長の行財政改革の効果を市民に還元するという姿勢や、上下水道局の老朽給水管をはじめとする施設整備の取組については、何ら異論はありません。しかし、昨年の東日本大震災を境に市民の防災に対する考え方は、大きく変わりました。市民のニーズは、ライフラインの確保、整備促進にあると考えます。

■水道管耐震化率23％ 老朽化した水道管は236キロにも

本市の水道管路の耐震化率は、平成23年度時点でおよそ22％にとどまります。我が会派の調査によると、震災で被災した仙台市では、震災直前の管路耐震化率は、およそ26％、被災後は復旧まで1カ月あまりを費やしています。本市は、人口密集率が被災した仙台市より高いことを考慮すると、耐震化は必然です。予測不能な首都圏直下型地震に対し、1％でも耐震化率を向上させることが緊急の課題です。

また、市内水道管の総延長は、約2500キロで、このうち老朽管は236キロです。管路の耐震化だけでなく、目標値に達していない漏水対策等の施設整備も必要です。耐震管の更新費用は1億円で約1キロとされています。

議案に示されています3カ年に渡る特例措置の継続に必要な財源は、13・6億円に上ります。これだけの財源があれば、より一層の防災に対する整備促進に費やすことが出来ます。

さらに、被災した仙台市では、現在、復興のために莫大な予算が必要となっています。防災に備え、これらの財源を積み立てておくことも検討に値します。今後は、「選択と集中」をもって必要な公共事業に予算をかけることが望まれます。

■還元の実感は市民にはない

行財政改革の還元に対する市民の評価・意見聴取に持ち入れられた判断材料が、広報紙のプレゼントクイズという正確な意見募集に全くそぐわない方法で行われました。その件数も約85万4千件中の回答件数81件。その内の好意的な意見はわずか23件と極端に少ない数でありました。

市は「行財政改革効果を市民に実感していただくという特例措置の目的は一定程度果たしているもの」と代表質問の答弁しましたが、我が会派の聞き取り調査によると、市職員にすら残念ながらほとんど知られていませんでした。

しかも、当時の水道局長は、料金軽減の継続について「施設整備や企業債の償還財源に充当してまいりますので、継続することは考えていない」と否定する旨の発言を本会議でしています。市民からの正確な意見集約を行ってこなかった点を合わせて考えると、上下水道局は、継続する意志が希薄だったと推測されます。

■強靭な都市力の構築が不可欠

ましてや現在では東日本大震災の発災前と同じ対応は困難です。津波による原発事故や先日の笹子トンネルの事故然り、今、必要なことは、「危機管理能力」の在り方です。危機管理能力は、危機が発生してからのマネージメントではなく、危機が生じる前にどれだけの準備が出来ているのか、そこには先見性が求められます。

首都圏直下型地震のような広域で発生すると予測されている大規模災害においても、防災力を備えた自立を担えるまちづくり、『強靭』な都市力の構築が必要不可欠です。

以上の理由から、私ども民主党川崎市議団は、市民に実感の薄い一世帯あたり月額50円の軽減よりも、危機管理に対応した更なる防災力の向上を求めました。

議会は市行政の追認機関ではありません。これからも私たちは是々非々で臨んでいきますので皆様の更なるご意見やご要望をお寄せください。

郵便はがき

料金受取人払

麻生局承認 092

差出有効期間 平成25年12月31日まで

215-8790

（受取人）
川崎市麻生区高石3-27-4
092

あまがさ裕治
事務所行

あなたのご意見をお寄せ下さい

お名前	住所・電話
ふりがな	川崎市 TEL　（　　）